

《第7回飯倉駅前地区まちづくり協議会 議事録》

日付	平成28年11月19日(土)	10:00~11:30	雨	書記	浦田
出席者	委員	井上 峰夫(会長)、野澤 善一郎、鈴木 弘、結城 康博			
		加瀬 功一(副会長)、椎名 英夫、平山 瑞子(監事)、松本 理			
	匠瑳市役所	企画課長 太田 和利、まちづくり戦略室長 林 雅之			
	事務局	江波戸、鈴木(九十九里ホーム) 西方、浦田(ミサワホーム)			
<発言者>	<内容>				
井上会長	・開会挨拶				
	本日もお天気の悪い中お集まりいただきありがとうございます。				
	本日の議題は、大勢の皆様にご協力いただいたアンケートがまとまったので結果をご報告し、これを基に				
	今後考えて行こうと思っております。また12月に予定している視察についての概要を報告いたします。				
	この協議会、皆様のおかげで少しずつ固まってきていると思います。今日もよろしく願いたします。				
事務局	配布資料：第7回飯倉駅前地区まちづくり協議会、「飯倉駅前地区まちづくりアンケート調査」の集計結果				
	1. アンケート結果(別紙資料1・2)				
	・407通(回収率27%)、傾向：50代夫婦2人車所有1~2台、地域の集まり参加7割等。 P2~3				
	2. ワークショップ分析				
	・求める機能、医療・予防・宿泊機能、延長・学童保育、買い物・交通・防犯、気軽に利用・地域と連携 P4				
	3. 分科会報告				
	・テーマ「地域包括ケアシステムの実現と東京圏からの移住促進」、地域の課題・対策・施策検討。 P5				
	移住者のターゲットについて				
	◎シニア層 退職後の高齢者(夫婦)○子育て層 夫婦+子(未就学児)地縁のある人、U・Jターン、障がい者と家族。 P6				
	移住先で重視すること				
	・子育て層 生活利便、人間関係・シニア層 日常生活の利便性、仕事・その他 移住についての相談窓口。 P7				
	CCRC拠点における方針				
	・保育、交流、生きがい×日常生活の利便設備×現状の医療・介護・福祉。 P8				
	CCRC拠点において期待される役割				
	・地域の日常生活を支える。・人が集まる、賑わいの創出。・健康長寿、生涯活躍の場を作る。 P9				
	・CCRC拠点における機能と連携イメージ、現在のエリア情報と事業連携イメージ P10~11				
	4. 視察について				
	・視察先：ゆいまーる那須。平成28年12月14日(水)午前7時45分に松丘園駐車場を出発。参加者11名。 P12				
	5. 次回協議会日程について				
	・12月10日(土)午後2時~				

	・アンケートについての意見等
A委員	注目しているのは、問2の家族構成1～2人が56%と半数以上、数年後どうなるのか。 問11の通院も10～20回以上が40%と、これも数年後にはどうなるのか。また高齢者の事故が多発しているので交通網の整備が必要。問15の地域の集まりに参加60%、40%の人は参加しない。匠瑳市の良いところ「ない」と答えた人がかなり多い。町の魅力作り、買い物の便利さなどどうやって対応していくか。
B委員	回収率が思ったより良かった。答えていただいている年齢層は50～60代が多い。このアンケートの内容はこの方々の意見が中心。まちづくりなので全年齢層、もっと若い方の意見、別の角度からの検討が必要では。50～60代の方は車で動くので駅の利用が少ない。自分も月3回利用するが、感じるのは通学の若い方々が多い。駅周辺をどのように感じて今後どうなって欲しいのか意見を得ることが出来れば全意見が取り入れられるのでは。
C委員	30～40代の回答が少ない。将来を担う世代から意見をどうやって集めるか。何か保育の回答がないかと思っていたが1つだけ。30～40代がいないからしかたない。子供がいる年代はいずれかの保育所・幼稚園に入っているか入りやすい状況。困っているのはフリー、に使える公園ではない遊び場が他の市町村と比べても少ない。
D委員	買い物が不便。80～90代は車に乗れない。交通事故が危険だが自転車に乗るしかない。ボランティアについて、まったくないが58%とあるが、昔から農村の行事がある。神社の掃除とか、これもボランティアと思うがボランティアとっていないかも。生活に密着していて当たり前になっている。実際もっと多いのでは。
E委員	高齢者の方に現状を聞けば、駅周辺は買い物が不便と聞いている。町まで行くのも大変。アンケートも年齢層が下になれば意見も違っていただろう。
F委員	アンケートは27%の回収率と聞いたが、もう少しあればと思った。選挙の投票率よりあればと思った。中間層の年齢の意見もほしい。高齢者も大切だが若い人も大切。飯倉団地では「買い物支援」があり配達してくれるが利用者は少ない。野菜は週2回来るが、なかなか歩いてはいけない。あと欲しいのは魚。意見としてはみんなが集まる場所がない。人と会う場所が必要。地域交流スペースがあればいいと思う。ボランティアは班・地区で結構やっている。D委員の意見に賛成。
G委員	そもそも1500世帯のなかに20～30代はどのくらいいるのか。
匠瑳市	資料を持ち合わせていないが、市全体でいえば20～30%、15歳以下が10%台である。
G委員	子育てより「高齢者にやさしいまちづくり」がメインのほうが独自性が出せて良いのでは。
事務局	ワークショップ分析説明
井上会長	ワークショップは私ども九十九里ホームが定例でやっている「いきいきシニア講座」でヨガの先生をお招きしてお話しながら行った。自分で意識して健康を気にしている人が集まっていたので色々な意見も活発に出たのでは。
事務局	分科会について報告

井上会長	分科会のさまざまな意見をまとめるとこのような図になる。この絵の一番左「こども園」については図面も ほぼ、出来上がり間近である。その中には絵に書いてある機能はほぼ網羅してある。真ん中の特養部分については、 昨日、県に施設整備の協議書を提出して受理していただいている。早ければ12月末に法人の理事長と施設長予定者と ヒアリングし、新年度初めには補助金等についての内示がある。こども園については30年春、特養については 30年9月～10月オープン予定である。それ以外のところで、交流スペースや住まいなどをどう考えていくか、また アンケート等の意見をどうやって取り入れていくか。
事務局	現在のエリア情報と事業連携イメージ説明
井上会長	旧オーシャンマート跡地だけでなく、周辺の色々な事業者たちとも協力してやっていくと賑やかに なっていくのではないか。 協議会も会を重ねてきましたが、実際にやっているところを一度見に行こうということで 12月14日に「ゆいまーる那須」に行きます。是非、ご参加いただける方はよろしく願いいたします。 次回会議は12月10日午後2時から。次回は具体的にまとめに入る時期かと思っております。 その他ご意見のある方お願いいたします。
A委員	サ高住は元気なお年寄りが住む。移住促進にも繋がる。どう運営していくかが重要。 飯倉団地の空家や土地を活用していくかなど、どのように構築していくかが活性化に繋がる。
G委員	サ高住の経営は上手にやらないとつぶれてしまう。上手にやればいいのだが、営業力をどう考えているか。
事務局	元気な方が対象なので、住まいも㎡数広めにし、駅側の生活相談窓口で働いてもらったり、コミュニティの 活動をやらしてもらったり、観光・文化そういったものと繋げていければと思っている。
G委員	厚労省で、最近首都圏の特養に空きがある可能性があるということで実態調査をしたが、 サ高住含め空きがあることがわかった。売りがないと移住してきてくれない。松戸と柏のサ高住が相当営業している。 ここ1、2年、東京周辺が入居しやすくなっている。八王子方面も空いている。 制度が変わることによって営業の仕方を上手にしないとイケない。続けていくことが大事。 どうやって続けていくかを視野に入れながら考えていければ。ここの強みは病院があること。 元気なうちは働く場所があり、「元気なうちから墓まで面倒見る」を病院があるので売りにできる。 安倍政権が今後東京都中心に特養整備費を作ったので23区は特養が建ちやすくなっている。 まさにCCRCの絵は、高齢者が移住してくることで若い人の働く場所ができ、出て行かなくなること。
B委員	具体的になってきている。できてからがスタート。以降、いかに営業をきちんとできるか、呼び込む誘致活動を 継続的に行っていく仕組みを作っていくかといけない。 国道沿いにこども園は危なくないのか。安全対策は十分に設計していただきたい。
C委員	90%は車で送り迎えする。車はサ高住から入るようにすればいいのでは。 ただし、あまり施設から駐車場が遠くないように。
井上	色々なご意見いただき、ありがとうございます。 また次回12月10日よろしく願いいたします。

以上

		次回	12月10日 PM 2:00~